



クビナガリュウ
ホッピー

むかわ町立穂別博物館

054-0211 北海道勇払郡むかわ町穂別80-6 0145-45-3141
<http://www.10.plala.or.jp/mukawa/soshiki/hakubutsukan/>

穂別博物館 2009夏の特別展

「穂別海竜博物館 - 穂別を泳いでいた海竜たち -」



ホベツアラキリュウ
(クビナガリュウ)

クビナガリュウは、どのように泳いでいた？

1. 前後の足を使って
 2. 体全体で
 3. 尾を使って
- ※足・体・尾の形や大きさなどを見て考えよう



ティロサウルス
(モササウルス)

モササウルスは、なにを食べていた？

1. 海草
2. クラゲ
3. 大きな魚

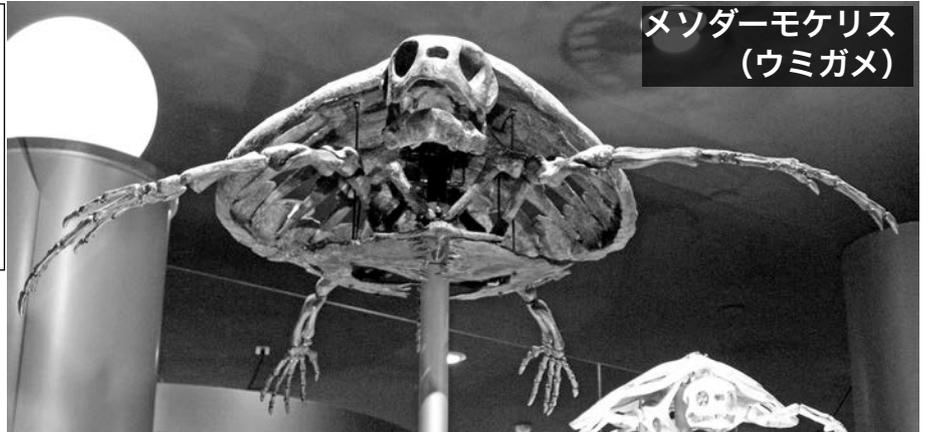
※歯の形や大きさなどから考えよう

カメのコウラは、
なにでできている？

1. 貝のカラのようなもの
2. カニのコウラのようなもの
3. 自分のホネ

※カメのコウラと体は、
どのようにつながっている？

この中で、
卵をうんでいたのは、どれ？
その理由は？



メソダーモケリス
(ウミガメ)

<<特別展を見ながら、考えよう！>>

7/18 (土) ~ 9/30 (水) (7・8月は、無休で開館)

むかわ町立穂別博物館 特別展示室

アンモナイト探検隊

6月14日（日）、「アンモナイト探検隊」が開催されました。化石採集と、博物館・地球体験館の見学がセットになった、穂別観光協会主催の体験学習です。当日は、苫小牧市や札幌市などのほか、函館市や八雲町など道内各地から31人に参加いただきました。残念ながら雨のため野外での活動を中止し、代わりに室内で化石のレプリカづくりと化石クリーニングを体験してもらいました。本物の石はとても固く、小さい子はなかなかクリーニングが進まなくて少し飽きている様子でした。対照的に、保護者の大人は時間を忘れて熱中していました。（桜井）



<レプリカづくり> 本物の化石から作った型に石こうを流して、アンモナイトの模型づくり。



<化石クリーニング> ハンマーとタガネを使って、白亜紀の化石を石から取り出す。

化石体験コーナー（7月の予定） 土・日の10:00-15:00/無料

化石クリーニング：土曜日（7/4・11・18・25）

（石の中から化石を取り出す：一回15分、化石は持ち帰りOK!）

レプリカづくり：日曜日（7/5・12・19・26）

（石こうでアンモナイトの模型づくり：作業に10分、20分後に完成）



化石クリーニングの道具

国立科学博物館と共同研究



「アンモナイト学」の著者である国立科学博物館研究主幹 重田 康成博士（写真右）がむかわ町穂別地区と日高町日高地区の地質調査、および当館に収蔵されている標本観察のため、6/1から6/14まで来館され、当館普及員の西村と共同研究を行いました。地質調査には、札幌市在住のアンモナイト研究家 伊豆倉 正隆氏（写真左）も同行しました。調査の結果、いくつかの新知見が得られましたので、成果がまとまり次第、学会等で発表する見通しです。（西村）

7/20（月）～26（日）は、町民無料入館日です（博物館開館27周年記念週間）



むかわの化石や生き物 <穂別のアンモナイト>

Hyphantoceras orientale ハイファントセラス オリエンタレ
穂別や三笠市、小平町、羽幌町などから産出するアンモナイト。通称ドリル。6巻き、10cmほどまで成長することが確認されている。白亜紀サントニアン期（約8500万年前）に生息。（西村）

2009年7月（無休）						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

○：町民無料入館日

白亜紀の穂別を泳いでいた海竜（クビナガリュウ、モササウルス、ウミガメ）は、どのようにして泳ぎ、何を食べていたのでしょうか？ また、この中で、卵を産んでいたのは、どれでしょうか？ 特別展を見ながら、考えてみましょう（さ）